

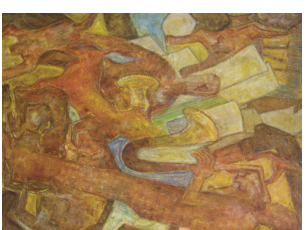
第13回 地平展

2011.8.23(木)~28日 10:00~17:30
埼玉県立近代美術館地階・2展示室

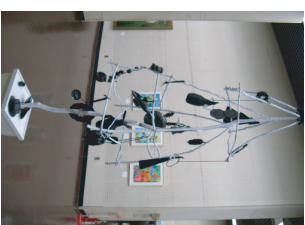
「地平」設立宣言

われわれは、20世紀の造形上の全面的な展開として、自由な表現を通過駅に観る。日々活動している現実の事象の上に成り立つ個の精神の独立が、いま要求されている。混乱の中で何かを捉え、刈り取るようにする目は、個人々の現実批判の精神の目に他ならない。現在、直面する時代の閉塞状況、人間疎外、資本の論理の重圧、「核」危機と環境破壊等の重層する状態、その渦中にある生活と危機意識は、日常を拘束している。状況の枷が強ければ強いほど、迷いが深ければ深いほど、われわれの希求するものは、前衛的で、よりダイナミックな共同実験を繰り返さなければならぬだろう。われわれは何処へ行こうとしているのか。創造する者として、普遍的な自由を享有し、混沌と形式を領有しながら、芸術の非人間化に激しく対抗しつつ、人間存在のあらゆる価値と創り出す行為の共存により社会参加・連帯をめざし、それを阻むものをこそ超え、打破することをもって21世紀の新たな地平を拓かんとす。

(1997マニフェスト)



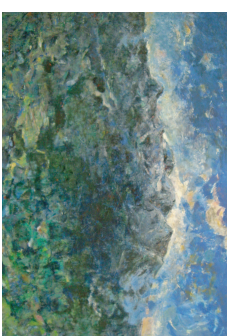
山口 さざ子



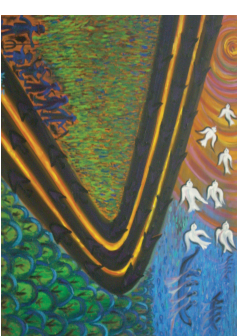
吉田 由美子



渡辺 権子



秋原 隆明



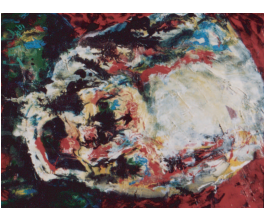
藤田 紀



三好 秀憲

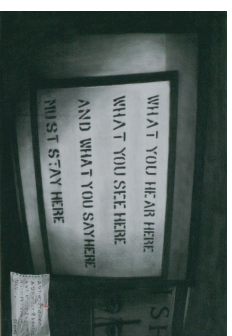


結城 あつき



高橋 行則

美術に関りある人間として、福島原発事故を素通りするわけにはゆかない。戦争反対の作品を描いたとしてもそれで戦争がなくなるわけではない。のと同様に原発を訴える作品を創作したとしても原発がなくなるわけではないだろう。そんなに美術家は偉いわけでもない。しかし、美術家が精魂込めて創り上げた作品は、観る側の心をゆさぶるはずである。心ゆさぶられたひとが身近の人に伝えることにより、更に反戦、原発の輪が拡大してゆくはずである。美術作品は、一気に物事を変える力はない。しかしその前に美術家には大きな課題がある。それはチャイナ作品、なんか創るな、と。そして、そんなものを持ち込んで来るな、戸いっ事、命がけで割れ、という事である。う。こんなことをうと、私は増々苦しくなるが……)



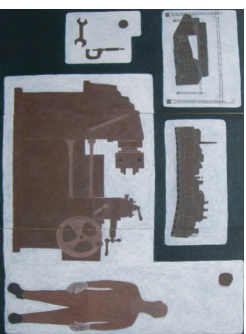
日比野 正壽



武田 昭一



菱 千代子



森田 隆一



眞住 高嶺



竹内 創



野火

稲を刈り終え、冬の支度が始まる頃、田んぼのあちこちから昇る煙は、一年間の稲作りを終えた印であり冬に向う篝火である。大岡昇平の小説で映画にもなった「野火」の中で敗残兵が「あの野火の下には、農夫がいる。そんなふつうの生活の下には宮々と田畑がいと叫びように、野火の下には宮々と田畑を耕し続けた農夫がいる。大震災の恐怖と原発の犯罪の中で、自分たちの食べるものは自分たちが生み出すという生存の原点と人類の生存そのものが問われている。今、あらためて野火の煙の昇る風景をかみしめたい。

百瀬 邦孝

アートスピーチ 8月28日(白) 13:00-16:00 美術館2F講堂
「今、求められるアート—異なった分野からそれぞれの考えと創作による—」
〈パネラー〉
林紀一郎氏 (美術評論家・元池田20世紀美術館館長)
岡田芳保氏 (詩人・書家・元群馬県立土屋文明記念文学館館長)
三好秀憲氏 (画家・地平会員)
石坂孝雄氏 (造形作家・地平会員)

連絡先: 藤井洪 〒337-0005さいたま市見沼区深作553-16
Tel/Fax048-683-7483